

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3171200421		
法人名	株式会社ソルヘム		
事業所名	陽だまりの家とうはく(北街)		
所在地	鳥取県東伯郡琴浦町徳万70-1		
自己評価作成日	令和元年9月	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.solhem.jp/contact.html">http://www.solhem.jp/contact.html</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特別非営利活動法人 未来
所在地	鳥取県倉吉市東仲町2572
訪問調査日	令和元年10月4日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

施設の際には徳万公園があり、各居室の中からも四季折々のお花を楽しむことが出来る。春には桜のつぼみから満開まで楽しみ、天気の良い日は散歩等でお花見を行っている。施設裏手には畑があり、畑仕事が好きなご利用者様と職員で季節の野菜を作り、一緒に収穫して毎日の食材にし、季節を感じて頂いている。日課として無理のない範囲でレクリエーションや体操等を行い、活動量を増やしたり、体の動きの把握に努めている。又、併設しているデイサービスとの交流も盛んで、日頃から合同で行事を行いながら交流を深めている。年2回の家族会、毎月の音楽療法等も合同で行い、ご利用者様やご家族様から好評を得ている。毎月第1木曜日に「陽だまりカフェ」を開催し地域の方達に参加して頂いたり、地域の祭りや、カフェ等に参加しながら少しずつ交流が広がっている。非常災害訓練の実施や避難場所と避難経路の確認も行っている。若年性認知症の方やIVHの方も入所しておられるため、それぞれのニーズに合わせた支援をその時々に応じて職員が話し合いながらチームケアを行っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

- ・自然に囲まれた環境にあり、利用者は近くの公園で花見を楽しんだり、散歩をして四季折々の移ろいを感じている。敷地内の畑で野菜作りをして食卓へと繋げ、喜びと満足感を得ている。
- ・施設内で「陽だまりカフェ」を主体的に行い、地域の人が集まりやすい仕組みを作っている。また地域のカフェや催しに出かけることもある。
- ・法人で6つの委員会を設置してケアの質の維持に努め、施設運営をしている。
- ・地域の3法人(6事業所)が2ヶ月に一度テーマを決めて話し合ったり、広報誌を発信して家族と地域を巻き込んだ支援ができるよう努めている。
- ・防災訓練について、役場の専門家のアドバイスを受け、設備や備蓄についてより具体的な対策を整備した。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

★努力している点

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関や事務所、各ユニットの食堂に基本的理念を掲げており、各自職員の名札にも入れて、朝礼時に唱和することで、具体的実践につながるよう努めている。	施設内の各所に基本的理念を掲げ、毎朝唱和し、職員の意識づけに努めている。利用者が地域の中で生き生きと生活できるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	敷地内のデイサービスと棟続きになっているため、地域交流を一緒に行っている。公園を散歩したり、地域の夏祭りやとんどさんに参加する等している。	施設内で「陽だまりカフェ」(認知症カフェ)を開き、地域の方との交流を図っている。また、地区公民館で行われるカフェやイベントにも積極的に参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方を積極的に受け入れ、認知症の理解の目的と地域の方々に適切なアドバイスが出来る様に事業所全体で行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会や認知症カフェを定期的に行っている。また、月ごとに行事の起案を行い、利用者や地域の方が楽しめるよう努めている。	会議には、利用者・家族・地域包括支援センター職員・民生委員などの出席があり、施設の行事、ヒヤリハット事例、研修の様子などを報告し、そこでの意見をより良い施設運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町担当者とは、日頃から連絡を密にとっており、家族の状況によっては相談を行い、困った時の協力体制が出来ている。	町担当者とは、運営推進会議や「陽だまりカフェ」などを通して連絡を密にとっている。相談しやすい関係もできており、様々な意見や助言をもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束、虐待防止に関するマニュアルを整備しており、事業所内でも研修を行ったり、3ヶ月ごとに身体拘束適正化委員会を開催し職員に周知徹底を行っている。必要に応じ、家族様と話し合い、同意書を書いて頂き記録に残している。	定期的に、身体拘束・虐待防止についての研修を行っている。身体拘束適正化委員会では、事業所課題検討シートを使い、各事業所の不適切ケアの現状を話し合うなどし、できるだけ拘束しないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃からマニュアルに沿って話し合い個人個人が、注意を払い虐待防止に努めている。身体拘束委員会に手話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修への参加や勉強会を開き、日常生活自立支援事業や成年後見制度について理解し、活用できるよう体制作りをしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書類を作成し、利用者や家族に一つ一つ確認して頂きながら説明を行い、理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に出席して頂き、利用者・ご家族からの意見を反映させている。年2回の家族会では、ご家族からの意見を伺い改善に努めている。	職員は、日頃から家族が意見・要望を出し、信頼関係を築き上げられるよう努めている。家族会や面会時などに意見等聞き取るようにし、運営に反映させている。	直接的には言いにくい要望等があるかもしれないので、他の工夫も検討されてはどうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスにて職員の意見を聞き、管理者会議において代表者と共に話し反映している。	管理者は、職員とのコミュニケーションが取りやすいよう事務所や休憩室を工夫したり、適宜個人面談をして意見を聞くようにしている。出た意見は管理者会議で検討し、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社内研修に参加した場合に処遇改善交付金を給付し、参加意欲向上を高めている。勤務シフト面で工夫し、全員が参加できる環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得を推奨し、各種勉強会を行っている。資格手当・処遇改善交付金を活用してやりがいのある環境作りをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町が開催しているグループホーム会議に参加し、情報交換をしている。毎年相互研修を行い、他施設と情報交換し職員の向上の機会としている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所後も日常の会話の中で本人の要望を傾聴し、本人の想いや望みを少しでも可能に出来るよう、そして安心できるよう、より良い関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族とは、面談時よく話し合い、信頼関係を築いている。入居後もお便りなどで、入居者の状態を報告している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時には、現在の状況を聞き、可能な限りの支援方法について話し合いを行っている。又他の事業所と連携を図っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	アットホームな雰囲気や大事にしながら、お互いが助け合って生活していると思っ頂ける様に自分で出来る事は、お願いし暮らしを共にしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは、日頃から状態報告を密に行い連携を取っている。ご家族の訪問時には、家族と入居者が、共に楽しく過ごせるような空間作りを心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設内で月1回陽だまりカフェを開き、地域の方々を招いて交流を図っている。又地域の祭り等に参加し、顔見知りの関係を築いている。	リビングで、利用者が中心となって陽だまりカフェを開き、地域の人、民生委員、ボランティア等と交流できるようにしている。スーパーに買い物に出かけたり、地元のカフェ、運動会に参加したり、駐車場を使用してもらい地域の祭りに協力できるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の性格などを理解し、交流が図れるような場面作りや関係性を保ちながら共に生活できよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても家族会・行事・運営推進会議に参加して頂いたり、野菜等の差し入れを持ってきて頂いたり、気軽に来苑して頂ける様これまでの関係性を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人の生活歴や背景を共有し、理解した上で支援を行っている。生活の中での要望や困りごとを伺いながら希望や意向を言いやすい環境作りにも努めている。	本人や家族から生活歴や暮らし方、希望等を聞き取り、その情報を支援に活かしている。利用者ができそうなことを把握し、積極的に実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス計画書作成時に家族、本人に聞き取りを行っている。取り組みそうなカルタ取りや積み木・絵合わせ・貼り絵・ボール送り等、日常での変化を見ながらケアプランに反映させている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の健康状態を見ながら、利用者に無理のないよう過ごして頂いている。楽しんでもらえる行事や作業を提供し、その方に合ったケアプランに移行するよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を定期的に関き、主治医、介護支援専門員、看護師、職員、家族で利用者の現状や今後のケアについて話し合い介護計画に反映させている。	毎月担当者によるモニタリングや、利用者・家族・主治医を含めたカンファレンスを定期的に行い、介護計画を作成している。計画には、今できることや好きなことをたくさん取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気づきやヒヤリハット等の変化を記録に残している。口頭、連絡ノートを活用し、職員間で情報を共有し支援を行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族のその時々状況の変化に応じて、職員を交えて話し合いを行っている。ニーズに対して、なるべく希望に沿えるように柔軟な考えを持つよう努力し支援に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回行っている陽だまりカフェと、地域で行っているカフェにお互いが参加し合ったり、祭りや催し物等、地域の広報誌、広告等にも目を向け参加している。又地域のボランティアに来苑して頂き、交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の月2回の往診あり。毎日のバイタルチェックで利用者の状態を把握し、異常があればすぐに連絡、対応出来る様体制が整っている。	定期的に主治医の訪問診療を受けている。緊急時や処置等も安心して相談できる関係である。家族とともにかかりつけ医に受診する利用者もいる。	受診連絡票の様式の工夫をしてみてもどうか。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	バイタルチェックを毎日行い、利用者一人一人の健康状態を把握している。関わりの中で異常を感じたら、すぐに管理者と看護師に伝え相談するよう連携を取っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、定期的に病院に訪問し、状況の把握を行っている。又退院後も安心して生活して頂けるよう、定期、臨時でのカンファレンスを開き今後についての話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族会を年2回行い、同意書を記入して頂き確認している。事業所での終末期を希望される場合も本人、家族の希望に沿えるよう確認し、話し合いを行っている。年1回、主治医を交え担当者会議も行っている。	利用者個々の重度化や体調に応じた終末期の方針や対応策を検討し、同意書で確認している。主治医と家族、事業所がチームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の連絡対応マニュアルを作成している。急変や事故発生時に職員が、落ち着いて対応できるよう、又緊急時の対応の講習を定期的な受け実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の方に来て頂き、日中、夜間を想定した避難訓練を行っている。又緊急時の連絡網を作成し全職員が協力出来る体制を整えている。	★運営推進会議を通じて、役場から災害時の対応について、立地条件に合わせた具体的な助言をもらい、それに沿って対策を整備することができた。	居室の入口に避難完了の確認ができる工夫をしてみてもどうか。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ案内時や入浴、着脱時など人格を尊重し、プライバシーを損ねない言葉かけや対応に努めている。	職員は、利用者の人格を尊重し、一人ひとりに寄り添い、穏やかに生活できるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の表情などを観察しながら、一人一人に合った言葉かけや心がけを行い、自己決定出来る様働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の思いを大切に個人ケアを優先とし日々の食事や入浴等、生活スタイルが保てる様に支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に移動美容院やボランティアの方に来て頂き散髪を行っている。又天候に合わせた服装も職員と一緒に選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	敷地内にある畑と一緒に収穫した野菜等で、食事の下準備(皮むき等)を手伝って頂いている。誕生日会には、本人様の好きな物をお聞きし、食事やケーキを出し皆さんでお祝いし楽しく食事されている。	組織内の栄養士会「恵の会」で献立を作成したり、栄養面・衛生面の勉強会を開催している。行事や誕生日のメニューを相談したり、利用者が楽しく食事出来るよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランス、カロリーを考え恵の会で検討しメニューを決めている。水分は、コーヒー、お茶など種類を変えながら、喜んで飲んで頂ける様工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎日、毎食後口腔ケアを行い、就寝前には義歯を外し洗浄剤を使用し、清潔に保てる支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄状況に応じて、声掛け、誘導、見守り、支援を行っている。	ほとんどの利用者がリハビリパンツを使用しているが、適宜声かけ、案内するなどして、トイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量、排便日を毎日チェックし便秘のときは、個々に応じたマグミット・ラキソ等で調整を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の体調に合わせて、注意しながら入浴支援を行っている。無理な声掛けはせず、個々に合わせリラックスして入浴できるよう工夫している。	利用者の様子を見ながら、週2回以上入浴できるように支援している。立位が困難な利用者には2人介助で無理なく、楽しんで入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない利用者には、体調を見ながらホールにて温かい飲み物を提供しゆっくりと話を聞くなどしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	配薬のリスト、処方箋等の確認把握に努め服薬時には、名前・日付けを職員同士で声掛けチェックし、誤薬防止に努めている。薬は施錠した保管場所に保管している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事担当が、毎月の行事を計画し外出、散歩等楽しみを持って頂き気分転換を図っている。入居者の中には、読書・塗り絵等本人の好きな事をして楽しんでおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近くの公園に散歩に出掛けしている。地域の街カフェや、イベントにも参加し地域交流を図っている。	日常的な散歩や、地域で開かれる街カフェやイベントに出かけたり、食材の買い物に出かけている。季節を感じられるようドライブを計画するなど、利用者が戸外に出かけられる支援を行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者が買い物等希望される時には、スタッフが同行し支援を行っている。又利用者の所持が難しい場合は預り管理を行っている。預り金を使用する場合は、預り金の残金を確認し、毎月明細書を家族に送付している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話がしたいと言われる時には電話をして頂いている。毎月、利用者の様子を手紙にして家族に送付している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング内には施設内で咲いた花や季節の花などを飾り、くつろげる空間作りを行っている。季節に応じて壁の飾り付けを替え季節を感じてもらえるよう工夫している。	施設内各所に花を飾り、壁や室内の飾り付けを随時変えて、季節を感じながらくつろげる共用空間となっている。ソファや椅子の位置を工夫し、一人ひとりが落ち着けるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングソファでは、気の合う利用者同士会話を楽しんだり、時代劇や歌の番組が好きな利用者がソファに座りテレビを楽しんで見て頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が以前より使われていたタンスを使用してもらったり、ご家族との写真を飾って頂き、居心地良く過ごして頂けるように配慮している。	個々の利用者に応じた居室の配慮が必要だが、全体的にシンプルな居室が目立った。	居室内の使用していない時のポータブルトイレや、車いす、物干しなどの収納方法を工夫して欲しい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレに手すりを設置し、利用者が安心して自立した生活が送れるように環境作りを行っている。又利用者の出来る事を理解し、家事等をして頂き充実した生活を送って頂ける様に務めている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3171200421		
法人名	株式会社ソルヘム		
事業所名	陽だまりの家とうはく(南街)		
所在地	鳥取県東伯郡琴浦町徳万70-1		
自己評価作成日		評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.solhem.jp/contact.html">http://www.solhem.jp/contact.html</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人未来		
所在地	鳥取県倉吉市東仲町2571		
訪問調査日	令和元年10月4日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設の隣には徳万公園があり、各居室の中からも四季折々のお花を楽しむことが出来る。春には桜のつぼみから満開まで楽しみ、天気の良い日は散歩等でお花見を行っている。施設裏手には畑があり、畑仕事が好きなお利用者様と職員で季節の野菜を作り、一緒に収穫して毎日の食材にし、季節を感じて頂いている。日課として無理のない範囲でレクリエーションや体操等を行い、活動量を増やしたり、体の動きの把握に努めている。又、併設しているデイサービスとの交流も盛んで、日頃から合同で行事を行いながら交流を深めている。年2回の家族会、毎月の音楽療法等も合同で行い、ご利用者様やご家族様から好評を得ている。毎月第1木曜日に「陽だまりカフェ」を開催し地域の方達に参加して頂いたり、地域の祭りや、カフェ等に参加しながら少しずつ交流が広がっている。非常災害訓練の実施や避難場所と避難経路の確認も行っている。若年性認知症の方やIVHの方も入所しておられるため、それぞれのニーズに合わせた支援をその時々に応じて職員が話し合いながらチームケアを行っている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

別紙参照

#### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝の申し送り時に基本理念の唱和をしている。理念の書かれたカードを職員全員が携帯しており、意識付けが行われている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	オレンジカフェ(認知症カフェ)を開き交流を図ったり、地域のイベントにも積極的に参加している。(とんどさん、夏祭り等)。ボランティアさんとの交流も多い。		
3		○事業所の方を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症カフェを開き、地域の皆さんとお茶をしたり、体操、レクリエーションを行い、認知症の理解をしてもらうよう取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一度、行政、家族様、地域の方に集まってもらい会議を開きヒヤリハット、行事等の報告を行っている。意見を提案してもらいより良い施設作りに生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認知症カフェや運営推進会議等を通じて町との交流連携を行っている。様々な意見や助言を頂いており、より良い運営が出来るよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束の研修を行い、職員の知識を高めている。支援のやり方についても会議、定期カンファレンスにて出来るだけ拘束しない方法を考えている。やむを得ず必要な場合は家族様にしっかり説明し、同意書を頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の為、施設内で委員会を設置し、定期的に職員研修を行い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に数回、研修に参加したり、勉強会を開いたり制度に関する知識やスキルアップも目指し理解も深め活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する説明をし、入居者又家族の不安な点などを尋ね、安心して理解納得をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	施設の行事や年2回の家族会などに参加、出席して頂き家族、地域交流の信頼関係を築きあげ、意見、要望を出して頂ける様にしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	研修やカンファレンスに参加し、職員の意見や要望を聞き管理者会議で検討し、その結果を書面にて職員に周知徹底を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得により、手当、スキルアップを目指し、やりがいのある仕事を感じてもらえるよう取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会を聞き、本人の能力に応じて法人内外の研修を受ける機会を作り、仕事をしながらスキルに合わせた研修案内をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域交流、琴浦町GH連絡協議会に参加し、情報交換を行ったりして、サービスの質を向上させていく取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で、生活状況を把握するように努め、不安や思いを受け止め安心して受け入れられるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の状況を把握することによって、思いや求めていることを理解し、事前に話し合いをし信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族の思い、状況を確認し改善に向けた支援の提案、相談を繰り返す事で、信頼関係を築きながら必要なサービスに繋げるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや不安、喜びなどを共有できるように、お互いに協力しながら穏やかな生活ができる声掛けをしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、日々の出来事や気付きを手紙で伝えている。家族の思いに寄り添い、入居者一人一人に合った支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	毎月面会に来られる家族もいたり、友人が訪ねて来られる方もあり今までの関係性を築けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で楽しく過ごせるよう、なじみの入居者同士での場面作りや洗濯干しなど出来るように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了した方でも、家族会などの行事に声掛けをし参加して頂くようにしている。これまで築いた関係を継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人希望を聞き、必要に応じてカンファレンスを開き職員間で話し合いをしている。プライバシーに配慮しながら有意義な日常生活が出来るよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活をしていく中で本人の希望を聞いたり、サービス利用の経過等把握し、支援に繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	カンファレンスを開き、その都度話し合いをし支援を統一している。又変化のあった場合も職員間で把握するよう、コミュニケーションをとっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスの中で色々な意見を出し合ったり、日常生活の状態を把握し体調などを見ながら本人が今まで通りのように生活出来るように職員全員で本人の現状を把握するようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に残し、体調の変化などは、詳しく記録に残すようにしている。職員間できちんと申し送りをし、情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者に変化があれば、家族様との連絡を密にとり、状況にあった支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の催し物に参加したり、月1回の認知症カフェを通して、地域の方々の交流に努めている。月1回陽だまりカフェを催し、地域の方々と交流を深めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	各入居者が、主治医に往診、又は受診して頂き、その都度密に連携を取っている。緊急時などの対応も連携を図っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝バイタル測定、午後の検温を行い日々の体調管理に努め、異常があればその都度施設看護師に連絡報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供を行い、病院と連携を取っている。又退院後のカンファレンスを行い、スムーズに支援出来るようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期については、家族、主治医などと話し合いをし、安心して支援を受けていただく様取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所全ての職員には、初期対応の訓練、応急手当の講習を定期的に行い、勉強会も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に地域に協力して頂き、避難訓練を行っている。また、緊急連絡網にて安全対策を身に付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人格を尊重し、一人一人の気持ちや意思を大切に日常生活のコミュニケーションを図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望が理解出来るよう、話を聞いたり意思を尊重し、自己決定が出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の暮らし、ペースを大切に、本人の生活スタイルが保てるよう、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	天候や本人の好み等を聞き、服を選んでいただいている。髪の毛のカットは訪問理容室(まめなか号)やボランティアで来て下さる理容室にて好みに合わせて、カット、パーマ、染め等をされている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	苑の畑でできた野菜を収穫したり、野菜の皮むきをして頂き、食事の下準備をいただいている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の状態に合わせて、刻み食、一口大、トロミ付き、ミキサー食等を提供し、一日を通じて食事量、水分量等が確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアと、毎晩義歯を洗浄剤を使用し清潔に保つようになっている。また、利用者によっては、ガーゼやスポンジブラシを使用している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握に努め、利用者一人一人に合わせて声掛けを行い、トイレでの排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎月個々の水分量を計算しチェックを行っている。適度な運動を行い、乳製品や根菜類を多く取り入れた食事を工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回以上入浴をしている。入浴を拒まれる際には声掛けの工夫をしたりして楽しく入浴できるよう心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない利用者には、温かい飲み物等の提供を行い、話し相手になる等の対応を行っている。また室温などの管理を行い、気持ちよく休んで頂ける様努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が使用している薬などの処方箋の確認を行い、職員同士にてチェックを行い、服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活で出来る事を楽しみにして頂ける様支援を行い、行事、レクリエーションなどで気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日はドライブに出かけたり、利用者の希望で買い物に出かけられるよう支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	欲しい物があるときは、買い物に出掛け本人の預り金より買っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望あれば、都度対応し話して頂く。家族の方から電話や手紙がきた際は、やり取りしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には、季節のわかる工作を利用者と一緒につったりして、飾っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席の椅子にネームシールを貼り、一人一人の居場所があることで安心し過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	転倒防止や利用者の好みに応じたベッドの配置等を工夫し、馴染みのある家具をおき、居心地よく過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が自立した生活を送りやすいよう、トイレ、廊下に手すりをつけ、足元に常夜灯を設置している。		

事業所名 グループホーム陽だまりの家とうはく

作成日: 令和 2 年 1 月 9 日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間	
1	10	家族会・面接時及びふれあいポストを設置し、意見、要望、家族の想いを引き出す努力は行っているが、意見、要望があまり汲み取れていない。	家族の意見、要望、想いを引き出し、運営に反映していく。	家族会以外にも、祭りや外出など、施設に気軽に訪問して頂ける工夫をしたり、年に数回、アンケート調査をお願いし、家族との信頼関係を深め、意見、要望を引き出すよう努める。	12ヶ月
2	30	受診連絡票の様式を工夫してみてもどうか。		様式を看護師会で検討し改善した。 (受診前連絡票と受診後連絡票が別々で分かりにくかったが、一体化することにより、見やすくなった。)	ヶ月
3	35	居室の入り口に避難完了の確認が出来る工夫をしてみてもどうか		居室入り口の名札の裏側に「避難完了」のシールを貼り、避難後は裏返してわかるよう工夫した。	ヶ月
4	35	地震、水害等の自然災害時の備蓄ができていない。	災害時、何がどれくらい必要かを具体的に検討していく。	食品、水、米等、保存できる物や、タオル、紙パンツ等の備蓄から始める。	3ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。